

平成 19 年度 医療問題特別委員会 行政視察報告書

平成 20 年 1 月 22 日

1. 日 程 平成 19 年 11 月 5 日～6 日
2. 視 察 先 岐阜県郡上市立 郡上市民病院
3. 視 察 事 項 地域医療の実態について
4. 視 察 者 一行 9 名
委員 佐野正三良委員長 亀山重光副委員長
森川 豊委員 広野豊作委員 高井 保委員
山田義栄委員 樋口浩二委員
当局 井口敏夫健康課参事
随行 石井信一議会事務局次長

【郡上市の概要】

郡上市は 2004 年 3 月 1 日、八幡町・大和町・白鳥町・高鷲村・美並村・明宝村・和良村の 7 町村が合併し誕生した。奈良時代に成立した歴史的にも由緒ある名前であることから公募により決定した。

人口は 48,392 人で、県のほぼ中央に位置し福井県に接する交通の要衝である。400 年以上の歴史を持つ日本三大踊りの一つである郡上おどりで有名である。

郡上市民病院

応対者 堀谷 喜公院長 鈴木 俊幸事務局長 加藤 廣雄事務局総務課長

【郡上市民病院の概要】

- 所在地 郡上市八幡町島谷 1261
- 開設者 郡上市長
- 開設年月日 平成 16 年 3 月 1 日
- 施設概要 鉄筋コンクリート造 地上 6 階、地下 1 階建
- 建物面積 15,040 m² (本体)
2,807 m² (併設 2 階建立体駐車場 178 台)
- 診療科目 内科、循環器科、外科、整形外科、小児科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、産婦人科、心療内科、精神科、リハビリテーション科、放射線科
- 病床数 150 床 (一般病床 100 床、療養病床 50 床)
- 病院の歴史 昭和 37 年 6 月 社団法人郡上医師会臨床センター設立 (100 床)
昭和 51 年 10 月 郡上中央病院と改称
昭和 52 年 2 月 へき地中核病院に指定
昭和 54 年 4 月 二次救急病院に指定
昭和 64 年 1 月 許可病床数 122 床に変更
平成 5 年 4 月 理学療法開始
平成 6 年 2 月 整形外科開設
平成 16 年 2 月 新病院建設着工
平成 18 年 5 月 8 日 新病院オープン

病院の理念 地域で信頼され心が癒される病院をめざす。

看護の理念 患者様のニーズにこたえる看護
温かく思いやりのある看護をめざします。

- 基本方針
1. 医の倫理を守り、医療事故が起きないように努めます。
 2. 二次救急医療を充実させ、地域医療に尽くします。
 3. 病病連携・病診連携を推進し、地域医療に努めます。
 4. 新しい知識や技術を導入し患者様に還元します。
 5. 患者様の苦痛や不安を和らげる環境作りをします。

病院の新築構想

- ・二次救急をするには医師確保と医療機器と設備の充実
- ・診療科が増えても診療する部屋がない
- ・長期療養型病床を持つには病室面積の増加が必要
- ・古い病棟は雨漏りや配管の漏れがある
- ・会議室や医師当直室あるいは医師の机を置く場所もない
- ・終末期医療をするには静かな環境が必要

広域連合議会への対応

- ・とにかく赤字を出さない
- ・赤字では病院の計画も尻狭みである
- ・管理者と議員に病院の現状を常に認識してもらう
- ・議会と医療特別委員会には院長が出席し説明する
- ・病院見学・研修を管理者や議員とともに行う

建築計画

- ・平成 10 年頃から郡上広域行政事務組合議会（後に広域連合議会）に新病院建設のお願い
- ・郡上の医療と現状の調査
- ・平成 13 年に郡上中央病院移転新築計画構想書
- ・平成 14 年に郡上中央病院移転計画基本計画書
- ・白鳥町と和良村を加えて 7 町村で病院問題を協議する。
- ・平成 15 年に大正町公園（隣地）に移転を決定し、設計会社をコンペで決め、平成 16 年 2 月に着工
- ・平成 16 年 3 月郡上市となり、病院建設事業が引き継がれた。
- ・郡上市市民病院に改名し、平成 18 年 5 月 8 日新病院のオープンとなる。

院長としての考え方

- ・全ての患者さんにとって良いと思われる視点で設計することを基本とする。。
- ・各職場・部署の障り取りはさける。
- ・それでも建ってみると自分本位に考える職員が居る。

病院の IT 化

- ・オーダーリングシステムを導入
- ・カルテの電子化やフィルムレス（将来）
- ・患者さんの秘守義務
- ・病病連携、病診連携、医薬分業（診療後、会計から院外処方箋受け取りまでが短縮され約 5 分以内となる）
- ・人件費の節約になるか

設計会社に要望

- ・この 2 年以内に雪国で 200 床から 500 床程度の病院設計を担当していること
- ・当院の要望に応えられない場合は設計士を入れ替える
- ・メンテナンスで経済的になるよう

設計の基本方針

- 患者の立場に立った病院 → ・誰もが利用しやすい施設
- 機能性の高い病院 → ・患者プライバシーの確保
- 柔軟性の高い病院 → ・快適な療養環境の創造
- 郡上らしい病院

メンテナンスと経費節約

- ・光触媒の採用、手の届かないガラス窓、タイルやコンクリートに
- ・屋根や樋あるいは玄関車回しに融雪装置
- ・病院内共用部分の照明の一括管理、階段等の照明はセンサー採用
- ・医局などはタイマーを採用し消灯する
- ・機械室の管理はコンピュータによる遠隔管理
- ・職員はエレベーターを出来る限り使用しない

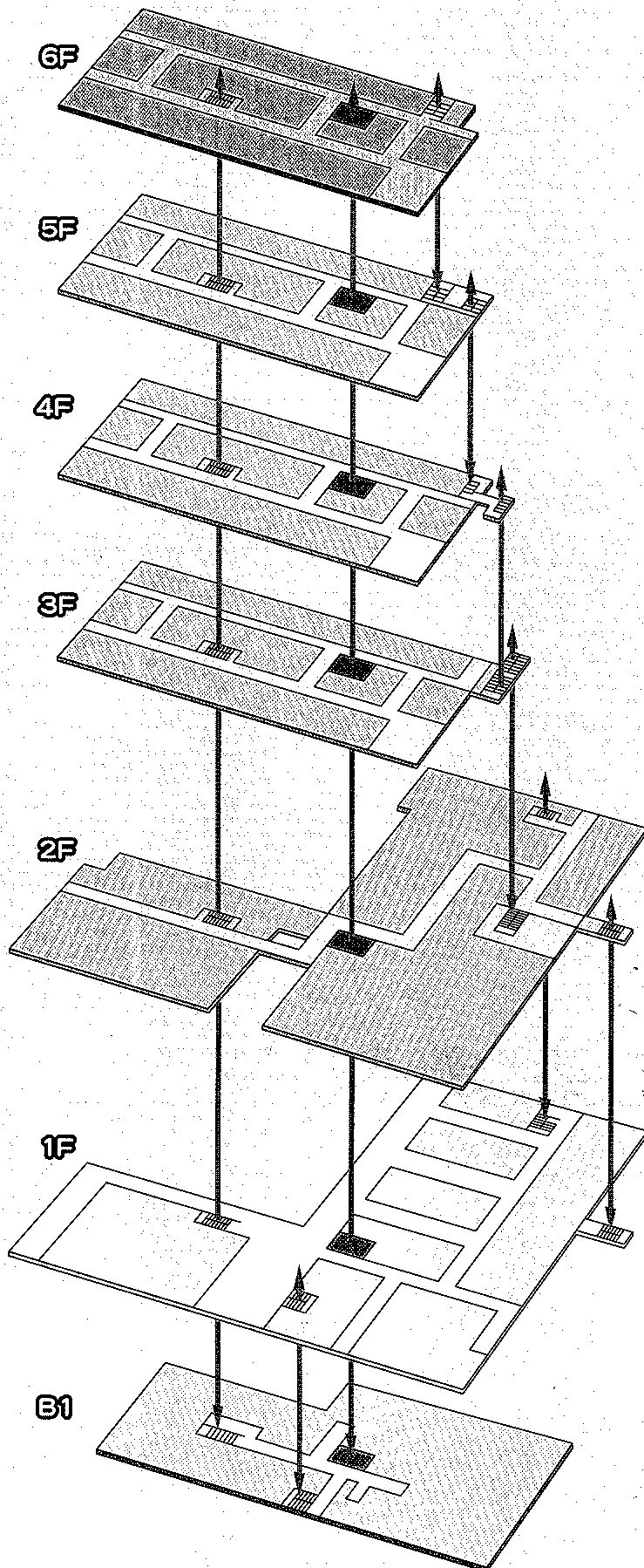
医師数

| 診療科 | 常勤医師数 | パート医師数 |
|-------|-------|--------|
| 外科 | 4 | |
| 内科 | 3 | 4 |
| 小児科 | 1 | 1 |
| 産婦人科 | 1 | 1 |
| 泌尿器科 | 1 | 1 |
| 耳鼻咽喉科 | 1 | |
| 整形外科 | 2 | 2 |
| 脳神経外科 | | 2 |

【所感】

病院は患者様のためにある。生命の安心・安全第一を考えた建設・機能とサービスで地域医療に貢献している。医師不足の中、魅力ある病院経営を目指し努力している院長のリーダーシップが、たいへん印象的であった。

施設概要



6F

院内保育室・病児保育室・心療内科

5F

療養病棟50床（緩和ケア病床含む）

4F

一般病棟52床・(外科・整形外科・小児科)

3F

一般病棟48床・(内科・産婦人科・泌尿器科
耳鼻咽喉科・脳神経外科)

2F

手術室・薬局・リハビリ室・人工透析室
健診センター・レストラン・管理部門・医局

1F

総合受付・売店・自販機コーナー・ATM・授乳室
外来診察室(内科・循環器科・外科・整形外科
脳神経外科・小児科・耳鼻咽喉科・泌尿器科
産婦人科)検査室・中央処置室・放射線科・救急

B1

厨房・倉庫・機械室